



発行日 平成30年12月7日
発行 佐世保徳育推進会議(佐世保市教育会内)
住所 栄町4番11号サンクル1番館2F
TEL/FAX (0956) 23-2856
E-mail sasebotokuiku@alpha.ocn.ne.jp

徳育



「絆」回復の試みとしての徳育

佐世保徳育推進会議 会長 木村 勝彦

佐世保市民の皆様には健やかにお過ごしのことと拝察いたします。
「徳育通信」第6号の発刊に寄せて、一言ご挨拶申し上げます。

さて平成30年9月29日に開催された「第9回徳育推進フォーラム」では、「新たな一歩のために～徳育推進の歩みを振り返って～」をテーマに、徳育を根付かせようとする活動の中での思いや気づき、現状認識などを確認した上で、佐世保における徳育推進の歩みをより広範で実りあるものにしていくためには何が必要かを語り合いました。台風24号の接近による生憎の天候にもかかわらず、ご来場いただいた多くの皆様と共に、佐世保徳育推進活動の豊かな未来像を考えることができたように思います。

台風と言えば、この夏は日本中が異常高温に苦しみ、地震、大雨、暴風などの相次ぐ自然災害に見舞われて、かけがえのない生命や貴重な財産が数多く失われてしまいました。さらに人格の尊厳をないがしろにし、生命を奪い取ってしまう凶悪犯罪や事件も頻発し、私たち皆が胸を痛めない日はないほどでした。しかし、そのような中でも手を携え合って復興に立ち上がろうとする人々の姿を見て私たちが改めて気づかされたのは、人と人がつながり合っていること、すなわち絆(きずな)の大切さではなかったでしょうか。人は一人では生きていけない、人はつながりの中の存在なのだという当たり前の厳粛な事実、今更ながら思い至らずにはいられません。

そして徳育とはまさに絆回復、人間のつながりを構築するための営みに他なりません。インドのコルカタで貧しい人々の救済に生涯を捧げたマザー・テレサは、自分自身が究極的な飢餓の中にあっても隣人を思いやる人々を称賛しながら、そうした食べ物ゆえの飢えよりも「精神的な飢え」「愛への飢え」の方が根源的な問題なのだと述べております。そして晩年に日本を訪れたマザーは飽食の日本に向かって、次のような言葉を投げかけたのです。「豊かそうに見えるこの日本で、心の飢えはないでしょうか。だれからも必要とされず、だれからも愛されていないという心の貧しさ。物質的な貧しさに比べ、心の貧しさは深刻です。…豊かさの中で貧しさを忘れないで下さい」。

私たちの佐世保徳育推進活動は、こうしたマザー・テレサの呼びかけに対する力強い応答になり得るものではないでしょうか。私たち一人ひとりが身近なところから「精神的な飢え」を克服し、絆を作り上げていくことが徳育の眼目であると思われま